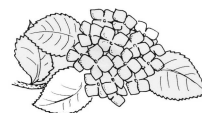




広町自治会
会長 猪俣 武雄
802-2391

緊急事態宣言は解除されましたが
コロナウイルスとの闘いは、まだまだ続く・・・。
避難所の感染防止を考えてみましょう



「最近、地震多くない??」

新型コロナ流行下で心配の声も、今、大地震が来たら

2020年1月から4月までに発生した、全国の震度3以上の地震を気象庁の過去のデータベースと比較しても、過去と比べて特別に多いわけではありません。

ステイホーム週間で外出している人が極端に少なかったことや、コロナの猛威への恐怖や将来への不安とが相乗効果を生んだなど、いつも以上に地震への警戒心が高まった可能性も考えられます。

「今、災害が起きたら 国や自治体の避難所感染対策は」

国では、今月、自治体あてに通達を出して

「できるだけ多くの避難所を開設して、避難者のスペースを確保することや基本的な感染対策を徹底することなどを求めました」これを受けて自治体では悩みながら対策を始めました。

横浜市からは、災害時の避難所における新型コロナウイルス感染リスクを踏まえた対応として、「新型コロナウイルスの拡大が続く中、大地震などの避難所では「密閉・密集・密接」の3条件がそろいやすく、感染爆発が懸念されます。

本市では、このような状況下で災害が発生した場合に、避難所の開設数を増やすとともに、換気、手洗い、咳エチケットの徹底や生活するスペース確保などウイルスの拡散防止に努めて参ります。市民の皆様におかれましても、災害から自身の身を守ることを最優先に考えたうえで、新型コロナウイルス感染のリスクを減らすために、ご協力をお願いいたします。」

中田中学校避難所の現状は

(広町自治会、中下自治会、根下自治会、中西町内会の避難所です)

- ・ 体育館を一人分(2㎡)づつに区分し、通路分をとると、約100人の収容が可能です。ウイルス対策のために隣との間隔を2m以上空け、2mの通路を設けると収容人数は半分以下になります。
- ・ 感染が疑われる人が避難してきても、隔離する場所もまだ決まっていません。
- ・ 避難所には、食料や水、毛布などは備蓄していますが、マスク・消毒液などの衛生用品は用意されていません。
- ・ 3密対策も明確にされておらず、避難所に入る時に体温を測る等の決まりもこれからの課題です

【国や自治体はコロナ対策で手一杯、避難所における感染症対策は、まだ始まったばかりといえます。

公的避難場所では、感染のリスクも高く、家族の避難方法をもう一度考えてみましょう】



《ダメです × 》

3つの密



密閉



密集



密接

今私たちに出来ることは

- ・災害が発生したときに、家が被災した人が避難所に避難することが基本です。
- ・避難所が混雑すると、感染の恐れもあります。3密をふせぐためには「分散避難」も検討しましょう。

分散避難とは、「在宅避難」「友人宅避難」「車中避難」等

- ・災害時に自宅で安全を確保できる場合には、新型コロナウイルス感染を防止するためにも、在宅避難に努めて下さい。在宅避難に備えて食料やトイレパック等の備蓄品を準備して下さい。
- ・親戚や親しい友人と話し合い、友人宅避難も検討して下さい。特に幼児や高齢者がいる方は検討して下さい。
- ・車中避難の方法もありますが、エコノミー症候群を防ぐ対策が必要です。

【お宅の非常持ち出し袋を、チェックしましょう】

- ・有効期限切れのものや、カットバンなど古くなった物は更新しましょう。
- ・感染症予防にマスク、消毒液、石けん、ウエットティッシュ、体温計などを各自で準備して入れましょう。



《自分の身は自分で守る》

「新型コロナウイルス感染防止」「緊急事態宣言」は誰もが経験したことのない異常な事態です。自分や家族を守るために、向こう三軒両隣が力を合わせこの状況を乗り切りましょう。